

# 2002年1月例会レジュメ

## 新年懇話会

平成14年1月11日(金)18~20時 荳手第2ビル5階会議室にて新春懇話会を開催,出席者52名。

懇話会は内藤,館沢両幹事の司会により進行し,会員相互の歓談の合間にスピーチをお願いした。

水谷部会長「技術士をとりまく環境も大きく変わろうとしている。機械部会会員の力を結集させるべく,ホームページを立ち上げた。中味の充実を図りたい」。長友理事「ホームページ,Eメールで業務照会がある。期待は高い。密着して人対人の活動を願いたい」。芳野(あと5年で100歳)「ニューヨーク貿易ビルの崩壊は産業革命以来の事件である。科学技術が人間性を忘れてはいけない」の挨拶と乾杯で懇話会に入った。

<先輩からアドバイス> 木村(勝)「中小企業経営者で,良い時代になったと言う人もいる。学ぶべきものが多い」。林(洋)「技術立国といっても何も無い。国も悪いが技術士も悪い。売り込め」。河島「機械部会を目的意識を持って運営して欲しい」。片野「微粒子工業体系をまとめた。購入を検討して下さい」。安藤副会長「頑張るので,宜しくお願ひしたい」。

<各県技術士会の活動状況> 神奈川 武藤「会員約250名。中小企業に軸足をおき活動している」。山梨 功刀「会員45名。インフォメーションルームも設け活躍している」。埼玉 林(裕)「関東技術士協会があるが,残ったのは埼玉,東京。どうするか検討中」。千葉 畑「会員約300名。全国に開かれた会で,個別中小企業の指導,講演会等を行っている」。

<委員会トピックス> 倫理 佐鳥「年2回の開催である。業務開拓ではEメールが有効である」。政策 関根「6小委員会で構成され,活発になってきた」。修習技術者支援 佐藤(国)「修習ガイドブックが発売。1月26日(土)に歓迎会がある。出席と指導を」。

<若手幹事その他> 企画 塚原「例会に出席しているうちに感化され,変わっているなど云われている」。広報 清水「基礎的な知識が不足している若い人がいる。指導が必要」。2月例会講演予定 大島「高齢化社会で自立する技術者が,いかに生きて行ったらよいかの問題提起をしたい」。

宴なかばで恒例の野田の声色 名古屋山三「鞆當(さやあて)」(役者 中村梅玉)のご披露があり盛り上がった。3本目は,会計 河上が機械部会の発展と頑張りを祈っておこない,関矢副部会長が謝辞を述べた。かくして新春懇話会は大盛況裡に終わった。(敬称は省略した。)

(浅香 浦太郎 記)